

文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業」

「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の構築による  
広域連携型学士力向上プログラム

# ふくしまの留学生と 国際交流 2010

International Students of Fukushima Prefecture and International Exchanges

アカデミア・コンソーシアムふくしま





## CONTENTS

1  
4

大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業

「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の構築による広域連携型学士力向上プログラム

### 各大学の取組

4 会津大学 日本語研修による日常生活とキャリア支援

5 福島大学 留学生のための日本語補講について

6 福島工業高等専門学校 福島高専における国際交流事情

7 福島学院大学 福島滞在の一ヶ月

8

### ふくしま国際交流スピーチコンテスト in いわきの開催について

9 インド人の私が感じたカルチャーショック 10 ミャンマーの宝物

会津大学大学院 コンピュータ理工学研究科 博士課程2年  
アビジット ラワンカル [インド]

東日本国際大学 福祉環境学部2年  
ミイイチョ [ミャンマー]

11 日本人の真心

東日本国際大学 留学生別科  
張 昊 [中国]

12

### 日本から海外へ ~ From Japan ~

12 アメリカで学んだこと

日本大学大学院工学研究科 建築学専攻 博士後期課程4年  
鈴木 裕介

多民族国家オーストラリアにて

福島大学 経済経営学類1年  
村山 菜月

13

### 海外から日本へ ~ From Foreign Countries ~

13 いわきに来て一年

いわき明星大学  
科学技術学部有機化学研究科修士2年  
王 進政 [中国]

日本に対する印象

いわき明星大学  
科学技術学部結構生物学研究科修士2年  
張 放 [中国]

14 日本そのもの

日本大学工学部 電気電子工学科 1年  
コステ ダレン [アメリカ]

ネパールの青い森は、金のように素晴らしい ~象と一角サイの楽園~

東日本国際大学留学生別科  
ボーデル パラカス [ネパール]

15 どうして平気なの?

福島工業高等専門学校 物質工学科 4年  
ダーラー ポンピバック [ラオス]

16



16 外国人留学生の受け入れ状況  
出身国・地域別留学生数

17 地方別・都道府県別留学生数  
福島県内高等教育機関における外国人留学生の受け入れ状況

18 国・地域別外国人留学生数

19 私費留学生の奨学金別受給状況  
留学生の寄宿状況

20 平成22年度 福島県内高等教育機関における  
研究・教育交流協定締結校名

# 「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の構築による 広域連携型学士力向上プログラム

**構成大学**

福島大学、会津大学、福島県立医科大学、いわき明星大学、奥羽大学、郡山女子大学、東日本国際大学、福島学院大学、日本大学工学部、放送大学福島学習センター、会津大学短期大学部、いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部、桜の聖母短期大学、福島学院大学短期大学部、福島工業高等専門学校

福島県内所在の16の大学等すべてが、多領域の教育事業に共同で取り組むことにより、真の学力の引き上げ、福島県の教育水準の底上げを図ります。県土が広く大学等も地理的に分散する状況に対応し、各大学等の特徴に即して12のプログラム事業を展開します。

「豊かな地域性をもつ真の学力」が身に付く教育を共同で繰り広げ、有為な人材を地域に送り出すことを目指します。

## アカデミア・コンソーシアムふくしまについて

### 知と地の響鳴ふくしま〈知と地のネットワーク〉

[地域との響鳴] 知的リソースの集積と活用、総合的な連携体制

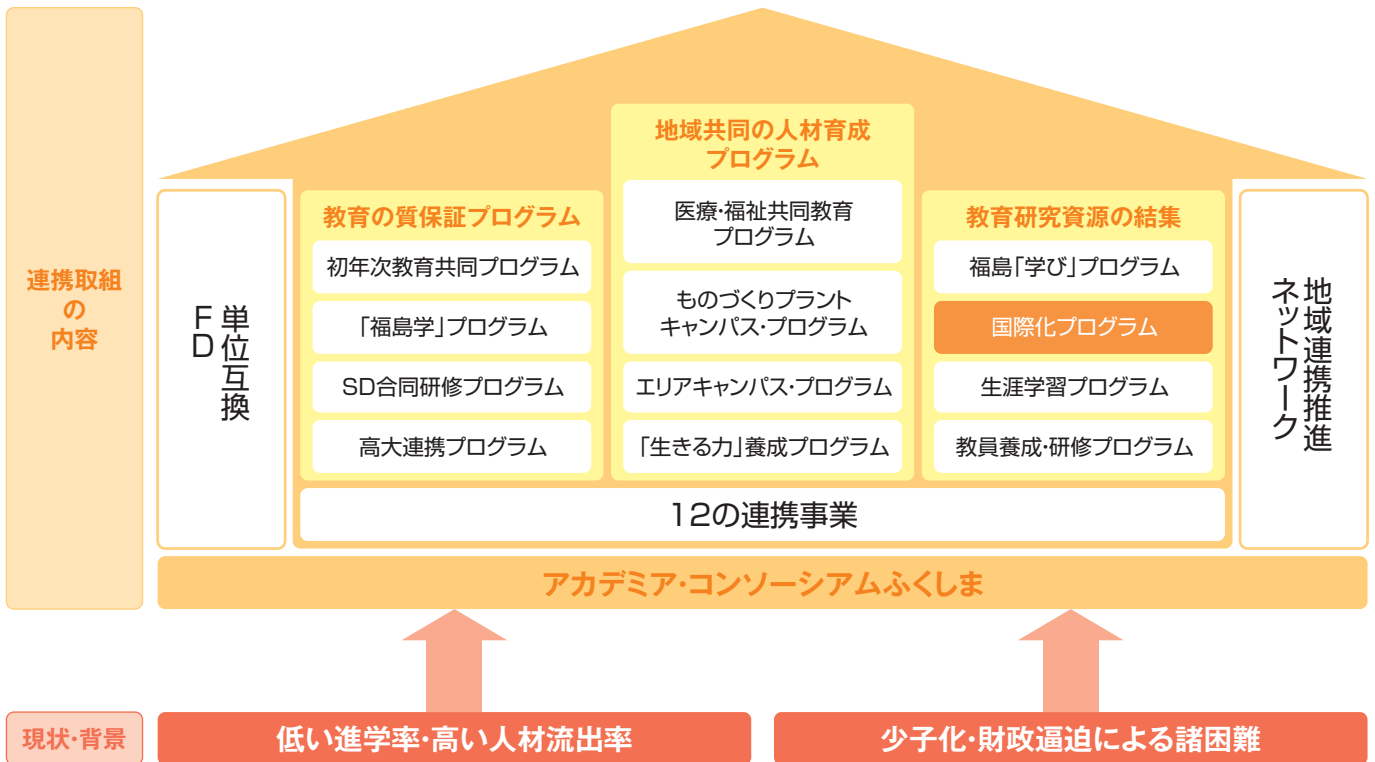


# 12のプログラムについて

期待される効果

福島県の高等教育の底上げ

高度人材育成による地域貢献



## 国際化プログラムについて

### 1. 事業の目的

留学生30万人計画が提起され、外国人教員の増加も含め地域の国際化が進展しています。県内大学が国際化を共通の課題としてとらえ、共同で以下の取組を行います。

### 2. 事業内容

#### ① 福島異文化弁論大会の開催

県内大学の留学生及び日本人学生が、福島県民の前で異文化に触れた体験を発表する弁論大会を開催します。異文化に対する相互理解、国際親善への寄与が期待され、また県内の留学生が一堂に会する機会を設けることで複数大学の学生同士が切磋琢磨しあえる機運を高め、県内留学生のネットワークおよび学習意欲の向上への動機づけを図ります。

#### ② 「ふくしまの留学生と国際交流」の編集・発行

福島県内の留学生に関するデータ、留学生支援の状況等を冊子として発行します。

#### ③ 短期語学研修の相互乗り入れ

県内各大学が実施する海外短期語学研修について、他大学の学生が参加できる制度を構築することにより、県内大学生の国際経験の機会を増やし、国際性豊かな人材育成を目指します。各大学の個別の事情を調査し、仕組み作りのための協議・検討を関係機関(民間旅行会社等含む)と行います。

#### ④ 留学生・外国人教員のための日本語研修

留学生、研究者・教員及び配偶者等を対象に日本語研修を共同で実施することにより、コミュニケーション能力を高め、安全で自立した生活を確立し、日本文化の理解を深め積極的な地域社会への参加に繋げることを目指します。

また、日本の企業風土や文化的背景、ビジネスの場面に適した表現を習得するための機会を確保することにより、日本でのインターンや企業・各種機関への就職を目指す留学生を支援します。

事業名	事業別主務校	事業内容
1.初年次教育共同プログラム	福島大学	①初年次共通テキスト『福島で学ぶ』編集・発刊 ②高校教諭との合同討論会「学ぶ権利と真の学力」
2.「福島学」プログラム	福島県立医科大学	①「福島学」共通授業の開講 ②『福島学』共通テキストの編集・発刊
3.SD合同研修プログラム	福島大学	①階層別研修・目的別研修・専門研修の実施 ②短期・中期の人事交流
4.高大連携プログラム	福島大学	①高校生のゼミ体験コース、エリアキャンパス事業参加 ②大学と高校による保護者のための進学セミナー ③専門分野別進学ガイダンス
5.医療・福祉共同教育プログラム	いわき明星大	①福祉系NPOインターンシップ ②学生による地域医療福祉調査プロジェクト ③福祉先進国学生視察団
6.エリアキャンパス・プログラム	福島大学	①エリアキャンパス・プログラム
7.「生きる力」養成プログラム	福島学院大	①「起き上がり小法師」DVDドラマ制作 ②カウンセリング・プロセミナー
8.ものづくりプラント キャンパス・プログラム	日本大学工学部 福島工業高等学校	①工場訪問シリーズ ②ふくしま・ものづくりコンテストの開催
9.「ふくしま学びカード」プログラム	福島大学	①大学等施設の学生・市民開放
10.国際化プログラム	東日本国際大学 会津大学	①福島異文化弁論大会の開催 ②「ふくしまの留学生と国際交流」編集・発刊 ③短期語学研修の相互乗り入れ ④留学生・外国人教員等のための日本語研修
11.生涯学習プログラム	桜の聖母短期大	①公開講座の共同開催、共同パンフレットの作成 ②職業別市民講座の開催 ③市町村議員講座
12.教員養成・研修高度化プログラム	福島大学	①教員養成における共同 ②免許状更新講習の協同実施 ③教員研修支援ネットワーク構築





# 日本語研修による日常生活と キャリア支援

川口立喜(会津大学 国際戦略本部)

会津大学では、創設以来、高い外国人教員比率(40%)や英語による教育を基に、会津という地方都市の特性を活かし国際交流を推進してきた。

会津大学の外国の大学との交流協定は、現在、15カ国・51校となり、双方向学位制度(DDP)、アジア人材事業にも取り組んでいる。また、留学生に対して地元のIT企業でのインターンを組み込んだ「産学協同IT育成モデル」も開始した。

本学では、留学生が卒業後、大学院進学や帰国が主流であったが、日本国内での就職を希望する学生が増加している。このような背景を踏まえ、アカデミア・コンソーシアムふくしま「国際化プログラム」においてビジネス日本語研修と初級日本語研修を実施している。

2010年度より実施しているビジネス日本語研修では、日本企業における文化的背景、ビジネスの場面に適した表現を習得することにより日本国内のインターンや就職を目指す。東日本国際大学、会津大学の拠点型の研修に加えてテレビ会議システムを利用し、福島

大学への遠隔研修を実施した。受講者は講義形式のみならず、実技を通してビジネスに必要なノウハウを学習する。「日本の企業就職に対する意識が高まった。」との声も受講生から聞かれた。

また、これまで日常生活でのコミュニケーション力を確立するために実施してきた初級日本語も継続している。福島大学、会津大学で実施しており、外国人教員・留学生及びその家族が円滑な日常・研究生活を送ることを目指している。日本語基礎力のみならず、地元で生活する上で必要な文化的理解も深める。受講生からは「買い物でのやり取りに不安がなくなった。」、「日本語だけではなく、日本の文化を学ぶことができた」等の感想があり、初級クラスの出席率が90%以上となるなど、受講者の意識、満足度の高さが見受けられた。

今後も会津という特性を活かし、地元との連携を深め、国際交流・留学生の生活支援、キャリア形成に取り組んでいく。その取り組みが福島県内の大学へ広がり、福島県の国際化の一翼になることを目指したい。



▲初級日本語研修



▲ビジネス日本語研修



# 留学生のための 日本語補講について

大槻恵美子(日本語教室「ひなざく」)

現在福島大学では大学で学ぶために必要な日本語習得を目的とし、夏季・冬季休業期間を除く4月から毎週水曜日午後、希望者に無料で日本語の授業を行います。地域ボランティア日本語教室「ひなざく」とのタイアップで「ひなざく」のメンバーが講師を務めています。

## 1.日本語補講

「初級」「中級」に分け、能力に応じた授業をうけられるようになっています。

初級では学習者が積極的に発話をしたくなるようなテーマを提示することで活発な発話を引き出し、発話に必要な文型や表現、語彙を習得できるようにし、また、日本人との会話に役立てるために、日本語の拍、リズム、イントネーション学習をします。使用テキストは『日本語おしゃべりのたね』『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』です。

中級では日本語の基礎が出来ている学生を対象として、日本文化、敬語など留学生が不得意な日本語を中心に授業をしています。

映像を使用して言葉だけでなくジェスチャー等も同時に学習し、日本社会ではさけて通れない敬語会話を練習し、日本人のマナーの習得も加味し授業をしています。例えば面接会場への入り方、立ち位置、お辞儀の仕方、姿勢、目線など。発想力、表現力がつき、日本人とコミュニケーションがとれる自然な発音、イントネーションが身に付くことを目標にしています。

映像で会話を学習した後は、日本語教室「ひなざく」のメンバー5人とともに、グループにわかれて会話練習をします。

宿題としては助詞の練習問題を出しています。使用教科書は『会話に挑戦!』『語学留学生のための日本語』です。

## 2.日本語研修

具体的な場面(例.図書館、保健管理センターなど)において、どのような日本語表現を使うのかを学習し、実際にその場で体験します。また、日本の風習や文化(例.七夕、茶道、温泉など)について学び、その場で使われる語彙や表現を学びます。

レベルの差もあり、得意分野も違うので話題や場面によって、知っている学生がみんなに説明したり教えあったり、と、和気藹々のうちに進んでいきます。

生活していく上で知っていると便利な情報や日本や福島について理解を深める情報を講師から提供するものと学生たちから出てくるもので楽しみながら、増やしていけていると思います。

福島大学に社会人向けの日本語教員研修講座がもうけられ、地域のボランティアが大学で学習するチャンスができ、その地域の日本語教室「ひなざく」と大学がタイアップして留学生のための日本語補講を開講しています。日本語研修には日本語教師を目指す大学生も参加しています。



▲茶室で茶道を学ぶ



▲七夕飾りをつくる



▲大学の学食に飾りつけ





# 福島高専における国際交流事情

福島工業高等専門学校一般教科准教授  
国際交流委員長 坂内昌徳

平成22年度はじめて国際交流委員長を仰せつかり不安と緊張と共に4月を迎えました。我が福島高専には現在、国費による留学生が4人、マレーシア政府の派遣による留学生が9人、合計13人の留学生が学生寮で生活しながら学んでいます。私も国際交流委員会の一委員として過去に何年か仕事をさせていただいたので、国際交流委員会の仕事について漠然としたイメージは持っていました。つい最近まで福島高専の国際交流委員会の仕事の大半は、福島高専に留学生として学ぶ学生に関わる様々な業務に限られていたといっても過言ではないでしょう。そんなイメージで委員長を引き受けた私は大いに驚かされました。数年前からタイ国の大学との文化交流が始まっていました。そして同じように数年前からオーストラリアへの語学生活体験研修も始まっていました。日常の校務に加えてこの2つをこなすだけでも非常に時間と労力が必要でした。そうこうしているうちに、東北地区の6高専とフランスの技術系大学との協定が結ばれてゆき、気がつけば来年あたりからフランスからの学生を本学に数ヶ月間受け入れるような話が進行しつつあります。私は英語の教師として、日夜、真の英語力を学生たちにつけさせることができるような授業を展開し、学級担任などの校務をこなし、同時に学術的な研究に取り組む中で、自分の非力を感じる毎日が続いています。高専のような小規模の機関においては昨今の業務の多様化が教職員に多大な繁忙をきたしており、本来の目的である高度な教育と研究の展開が必ずしも効率よくできているとはいえない状況といえるのではないのでしょうか。

さて、上にも触れましたが、福島高専では3年前からオーストラリアの語学学校へ学生を2週間派遣する英語生活体験研修プログラムを実施しております。2～3年生を対象に希望者を募り、1年目は20名の参加がありました。2年目は参加者が十分な数に達せず、3年目

は新型インフルエンザの世界的な流行があり、中止となりました。そしてプログラムを立ち上げて4年目である今年、夏季休業中である9月、9名がオーストラリアはシドニーにある語学学校に2週間学び、その間現地の一般家庭にホームステイをすることで英語生活を体験しました。参加した学生は一人一人が異口同音に今回のオーストラリアでの体験を、「世の中を見る目が開いた」有意義な経験だったと評価しています。企画運営にあたった担当者としても本プログラムの教育効果を実感しています。今後は単位の認定の可能性や、費用面での補助の可能性なども視野に入れてこのプログラムがさらに参加しやすくなるように期待しています。







# 福島滞在の1ヶ月

2010年6月21～7月21日

サウスカロライナ州、コンバースカレッジ 准教授マデリン V.ヤング博士(経済学)

2010年6月21日から7月21日まで私は福島市に滞在し、福島学院大学で講義等をする機会を与えられた。福島学院大学水野谷龍之准教授が受け持っている英語クラスで英会話の指導、日米経済についての講義をさせてもらった。担当クラスは次の通りである。福祉心理学科英会話I、II、情報ビジネス科2年英語リーディング、保育科第一部2年英会話I、II福祉心理学科3、4年英語リーディングの6クラスであり、4週間にわたり指導した。水野谷准教授の使用しているテキストを用い英会話の指導をし、更にアメリカの学生生活、私が奉職しているコンバースカレッジについて、またコンバースカレッジの学生を連れての数十回にわたる海外研修旅行、アメリカの教育制度、更に私の専門であるアメリカおよび日本の経済について講義をする機会に恵まれた。

私はコンバースカレッジの日本語の非常勤講師であり福島学院大学の客員教授の中島真澄先生とその日本語学習生二人と共に来日しました。二人の女子学生の名前はエミリー・ホフマンとローレン・ハンターです。学生二人は滞在前半、中島教授のもとで日本ビジネス文化コースを終了した。後半、ホフマンは東陵高校で、ハンターは福島学院大学附属幼稚園でインターンシップをした。

滞在最初の2週間私もホフマン、ハンターのために用意された活動に参加しました。私たちは食物栄養科の先生から日本料理調理、情報ビジネス科の先生からグラフィックデザインを学んだ。また日本舞踊、生け花、着物を着ての茶道など日本文化体験をしました。更に福島民報社、福島民友新聞社、ラジオ福島などのマスコミ各社を訪問し福島の政治・経済の実態について学んだ。

最初の週末、高湯街道をドライブし高湯温泉へ行った。また土湯温泉ではこけし人形に絵を描く体験もした。そしてそこで味わった新鮮な卵は私が今まで食べたどの卵よりおいしかった。

次の週末には土湯トンネルを通り磐梯レークラインをドライブしながら五色沼、檜原湖を訪ね檜原湖ではスピードボートに乗り、檜原湖水を探索した。1000札でおなじみの野口英世記念館を訪れ、野口博士の研究の偉業に感動した。特に博士はアメリカに渡り、アメリカ人の女性と結婚したことに深い興味を持ちました。その後世界のガラス館でいろいろなお土産を買いました。

またレジーナの森にも宿泊したり、東北サファリパークにも行かせてもらった。

平日のスケジュールは曜日によって異なり、ある日は阿武隈急行に乗り、大学に通ったり、早朝の授業があるときは水野谷准教授が通勤途中で私たちが滞在しているホテルに迎えに来てくれた。週2日は駅前キャンパスでの授業なのでホテルから直接徒歩で通勤した。

私は様々な通勤体系が好きになった。車窓から見える福島市の田園風景、車での通勤では福島市街の様々な様子が観察されて楽しかった。徒歩での通勤・退勤では福島市内の繁華街を探索し、ウィンドウショッピングを楽しんだ。

水野谷准教授が教えている学生との授業は徐々に慣れてきて大変素晴らしい経験になった。学生たちは私を快く迎え入れてくれ、とても和やかで楽しい授業をすることが出来た。ま

た活発なクラブ活動も見ること出来た。特に福島学院大学の名物ヨサコイクラブの踊りは、日本伝統の素晴らしい文化を見ることができた。そして学生たちのファッションセンスは私の創造を超えるほど素晴らしいものであった。

福島には多くのおいしい食べ物屋があった。数回ホテルでの朝食で和食を食べたがすべて口に合うものでありおいしかった。昼食、夕食ではアメリカのファーストフードや日本のファーストフード(回転寿司)、そしてスロウフード寿司(寿司職人の手作り値段は高いが高品質)を楽しんだ。また沖縄フード、おでん、そして中華料理、イタリア料理も楽しむことが出来た。福島学院大学の学食での昼食もおいしかった。食券を買って注文するのであるが一体どんなものができるか知らなかったが、全部大変おいしく食べることが出来た。福島駅のエスパルやセブンイレブンでは真空パックのたこ、さかなの乾き、お酒、ヨーグルト、メロンパンなどを買って食べた。ホテルの部屋で飲んだ緑茶、ステーキと共に出された海藻サラダなどは大変おいしかった。寿司は驚くほどおいしかったし、外国人は食べることの難しい朝食時にだされる納豆も好きになってきた。しかし人間の唇に似た灰色のじゃがいもらしい物体の「こんにゃく」は口にすることはできなかった。

滞在最終週末に私たちは日本文化ツアーを楽しませてもらった。会津鶴岡城を訪ね、日光街道をドライブして日光江戸村、日光東照宮などを観光し、田楽やゆば料理を楽しんだ。伝統的な日本旅館に宿泊し、日本料理と温泉を楽しんだ。青・緑・灰色の山々や川の流れや滝など日光の景色は言葉では言い表すことが出来ないほど美しかった。

東京では東京タワー、浅草、浅草寺、ショッピング街などを観光し、電車を乗り継ぎして東京ベイエリアを散策した。昼、夜ともレインボウブリッジの美しさは決して忘れることは出来ないであろう。

水野谷准教授の通訳で私の専門である経済学を学生に教えたこと、福島学院大学の学生たちと知り合いになれたこと、日本の田舎や、スカイライン等をドライブしたこと、そして何よりも日本の文化や経済を学ぶことが出来たことが私の福島での貴重な経験であった。



ふ	く	し	ま	国	際	交	流
	ス	ピ	ー	チ	コ	ン	テ
in	い	わ	き				
	の	開	催	に	つ	い	て



福島県内高等教育機関に在籍している留学生及び日本人学生が、福島県民の前で、テーマに基づいたスピーチを発表することにより、学生及び県民との文化に対する相互理解を深めること、外国人留学生が日本語で発表することにより、学習への意欲を高めることを目的としてスピーチコンテストを行いました。会場を東日本国際大学として行われた今回のスピーチコンテストは、いわき市民を中心に多くの方々に参加いただきました。

また、今回のコンテストは県内の留学生が一堂に会する機会であることから、第二部に留学生と地域の文化交流を目的として、いわきの伝統芸能であるじゃんがらの実演を行いました。スピーチ者には実際にじゃんがらを体験していただき、学生同士が切磋琢磨しあえる機運を高め、県内留学生のネットワーク形成にもつながる事業となりました。

第一部

ふくしま国際交流スピーチコンテスト

スピーチ者:14名(留学生12名、日本人学生2名)  
[題目]私の感じたカルチャーショック



第二部

留学生と地域の文化交流

～いわき・子どもじゃんがら～

小玉郷土芸能クラブにより  
伝統芸能子供じゃんがらを開催!





## インド人の私が感じたカルチャーショック

会津大学大学院 コンピュータ理工学研究科 博士課程2年  
アビジート ラワンカル [インド]

こんにちは。アビジートです。インドの中央にある村の出身です。子供の時、おじさんが日本の侍などについて色々話してくれました。それをきっかけに日本文化に深い興味を持ち、今は、文部科学省から奨学金をいただいて日本に留学しています。今日は日本で感じたカルチャーショックについて話します。ですから本日、私はあくまでもインド人の視点からお話しさせていただきます。

日本の第一印象は「日本人は贅沢だなあ」です。私の村では車を持っている人はお金持ちと言われていました。日本に来て、学生が車で大学に通う姿を初めて見ました。スーパーでプレミアムペットフードを見ました。「人間の食べ物より高い!」と驚き、写真を撮りました。先月の話ですが、大学で日本語のチューターを募集していました。時給1,000円。仕事は、留学生と日本語でしゃべることです。沢山の日本人の学生に頼みましたが、「手続きが面倒くさい」と言って誰も申請してくれませんでした。インドではサラリーマンが1,000円稼ぐのに2日もかかるのに断るというのは…。インド人の私には贅沢です。

私は日本人の友達ができません。日本人の若者は、アメリカ人やヨーロッパ人に憧れているのではないかと思います。最初は寂しかったです。一番不思議なのは、日本人のプライバシーです。皆さんがもしアパートに住んでいたら、上の階、下の階と隣に誰が住んでいて、その人は何をしているか知っていますか?話したことがありますか?「日本人のプライバシーとは何なんだ」と、アパートで寂しく感じました。インドでは、皆が隣の人と楽しく話します。それが、普通です。日本に来て一年が経ちましたが、私はまだ隣の人と話したことがありません。

次にショックだったのは子供の保育園です。私は大家族で育ち、子供の時からおじさん、おばあさん、両親などと遊んできました。保育園に預けられる子は可愛いそうに見えませんか?私はどんな理由があってもせめて子供時代に母から離れたくなかったです。何があっても、日本では、共働きしないと経済的に無理だと分かりますが、子供にどのような影響を与えているかを考えるべきだと思います。また、皆さんはコンビニでポルノ雑誌や漫画を売っているのを知っていますよね。子供が簡単にアクセスできるのはどうかな…びっくりしました。もし皆さんのうちの周りにゴミがあれば、市役所か警察に連絡しませんか?ポルノの雑誌や漫画などもゴミと同じような物だと思います。つまり、目にすると不快な気持ちになるからです。

日本人の勤勉さ、マナー、特に時間を大切にすること

には、感動しました。インドでは人や電車などが時間を守らない場合が多いです。ある日、札幌駅の外で見ましたが、サラリーマンが携帯電話で話しながら謝っていました。相手が見えないのに90度のおじぎをしながら「申し訳ございません、申し訳ございません」と謝っていました。びっくりしました。日本人のようにお客様を大事にする態度をインドでは見たことがありません。日本のいいところは数え切れないほどです。

今日は、インド人の私が感じたカルチャーショックについて色々話しました。いやな話もあって、皆さんを傷つけてしまったこともあったと思いますが、もしそうであったら心から謝りたいです。日本が好きだからこそ、日本に関心があります。今度は、皆さんからもインドについて私に色々聞いてほしいです。

せっかくいわきで行われたこのイベントなので、いわきの歌でスピーチを終わりたいと思います。この歌の一番の歌詞は、国を越えて人々の心に訴えかける魅力を持っていると思います。

**若いまち いわき 伸びていくいわき**  
**さわやかな 海の夜明けに**  
**夢をはらんで 満ちてくる潮**  
**あふれるのぞみ いわき**  
**みんなで 呼ぼう 幸せをここに**

皆さん「井の中の蛙、大海を知らず」という諺がありますね。今日のようなイベントは、自分の文化を反省してお互いの文化を理解するためのすばらしい機会だと思います。皆さんも考えてみませんか、いわきの歌のように、文化などの壁を越えて、夢をはらんでみんなで幸せを呼んだら、地球はどんなに素晴らしい星になるのかを? ご清聴ありがとうございました。







## ミャンマーの宝物

東日本国際大学 福祉環境学部2年  
ミイイチヨ [ミャンマー]

日本では年を取ってから「老人ホーム」に入居するお年寄りが多いです。私はこのことが以前から不思議でした。なぜなら、老人ホームに入る人々は、ふつう身寄りがないとか、生活が困っていて住む場所がないからといった理由で入居するものだと思っていたからです。日本は、経済大国ですから、少なくとも経済的理由で老人ホームに入居する人が多いはずはありません。それでは、なぜ、日本では老人ホームに入る人が多いのでしょうか。

私の国、ミャンマーでは、親が年を取ると、自分を育ててくれた親なので、たとえ生活が苦しくても自分で介護するのは当たり前です。ところが、日本では、仕事を続けるために子供を保育施設に預けるように、年を取った親を老人ホームに入居させることが一般的になっているのを見て、私は理解できませんでした。

一年前、日本の老人ホームのことをよく知らなかった私は、親ごさんを老人ホームに入れた方々にむかって、「自分を育ててくれた親の面倒をなんで家でみてあげないのですか、家族がいるのに老人ホームに入れるなんてかわいそうです」と失礼なことを言ってしまいました。その後私は福祉環境学部に入學し、日本の老人ホームなどの施設実際に見る機会に恵まれ、私の理解が一面的であったことがわかりました。日本の老人ホームは、ただ生活する場ではなく、介護を必要とされている方が多く入居しているのです。施設内は清潔で、まるでマンションのような形態で、自分の家のようにくつろげる空間でした。入居されている方々は、なんと自分から、子供たちに迷惑をかけたくないから入居しているという事実も初めて知りました。

日本は経済が発展していて、生活レベルが高い分、生活していくためには余計にお金もかかります。そして、親も子供たちも自分たちで生活していくために、自分たちで仕事をして自立して生きていかなければなりません。基本的にミャンマーと生活状況が違うので、一概に比

較はできないのです。

ミャンマーには老人ホームが少ないです。普通の人には、どんなに生活が苦しくても自分のおじいちゃんやおばあちゃんを老人ホームに入れません。その理由は老人ホームに親を入れてしまう事は、切っても切れない家族関係を壊してしまう、とミャンマー人は強く思うからです。

ミャンマーは仏教国ですから、子どもの時から両親を尊敬しお年よりを大切にしよう、しっかり教育されています。ですから、孤独死で亡くなったお年よりもほとんどいません。アジアの最貧国と言われるミャンマーで、なぜお互いの面倒をみることができるのでしょうか。それは、ミャンマー人の食生活を支えている基本的な物、つまり「サン、スイ、サー（ミャンマー語の米、油、塩）」があればなんとか生きられる術を知っているからです。ミャンマーは貧しい国ですが、生活は質素でも、生き抜く力を持っているのです。

確かに、ミャンマーは貧しい国ですが、お年寄りも周りの人から大切にされているので、精神を患う人は少ないです。こうした目に見えない思いやりはミャンマーの宝物です。

私はミャンマーも日本のように経済発展することを期待しています。しかし、豊かな日本に来て、経済成長の影で失った大切なものの存在も分かってきました。それはミャンマーにはまだたくさん残っています。物質的に豊かな日本で、私は本当の幸せとはなんなのか、福祉の勉強を通じてさらに深く考えていきたいです。







## 日本人の真心

東日本国際大学 留学生別科  
張 昊 [中国]

日本人といえば「優しい」とか「信頼できる」というイメージを中国人は持っています。それは多分、中国に住んでいる日本人が皆優しく、信頼できる人たちで、中国人からも尊敬されているからでしょう。しかし、私は中国で日本人と接する機会が少なかったため、以前は本当かどうか、信じられませんでした。

来日して間もないある日、私は市役所に行くことになりました。ところが、初めての外国でまさに西も東もわかりません。困っていると、一人の女性が「どうしたのですか?」と、声をかけてくれました。突然話しかけられた私は戸惑いながらも、市役所への道を尋ねると、彼女は優しく道案内をしてくれました。後で知ったのですが、市役所はその女性が行こうとしていた場所とは逆の方向だったのです。それにもかかわらず、その方は市役所まで一緒に行ってくれました。本来不安で一杯だった私はほんと安心して日本人の優しさを知りました。その女性の後ろ姿を私は一生忘れないでしょう。

それから数日経ったある日、小学生との交流授業があり、私たちはバスで榎葉南小学校に行きました。まだ来日二週間なので、最初、私は不安でした。でも小学校に到着すると子供たちは私たちのところに駆け寄ってきて、人懐っこい笑顔で迎えてくれました。この天真爛漫な笑顔を見た瞬間、私の不安が一瞬で吹き飛びました。この日の活動は、子供たちと話したりゲームをしたり、一緒にお昼御飯を食べたりすることでした。日本語がまだ下手な私にも、子供たちは飛び切りの笑顔で話しかけてくれ、本当に楽しいひと時を過ごしました。そして、ふと子供のようにしている自分に気がきました。時間はあっという間に過ぎ、お別れの時間になりました。子供たちは私に抱き付き、行かないでと言いました。その小さい手の感触は、今でもはっきり覚えています。子供たちは本当に無邪気で可愛く、さよならを言うのは辛かったです。私は子供たちに約束しました。「また来年も来る

ね。その時は日本語がもっと上手になって、中国の面白い話を聞かせて上げるよ。」と。

日本人は約束を守ります。だから私も約束を守るために日本語を上達させ、私のことを待っている子供たちに会いに、来年も行かなければなりません。

また、日本に来て驚いたのは自転車に鍵もかけずに、買った物も籠に入れたまま自転車を離れる人が多いことです。これはうっかりしているわけではなく、日本人が他人を信頼しているからではないか、私はそう思っています。

来日して一ヵ月半、私も日本の生活に段々慣れてきました。これからの留学生活でもっともっと日本人のことを知り、さらには日本の文化を理解していきたいです。

優しさや信頼は人間が本来持っているものです。それにしてもこんなに素晴らしい人々に私は驚かされました。中国人にとって日本人は素晴らしい大切な友達なのです。私はそう思っています。

「外国人子弟支援事業」 国  
コンテスト201  
コンソーシアムふくしま





## アメリカで学んだこと

日本大学大学院工学研究科 建築学専攻 博士後期課程4年  
鈴木 裕介

昨年度に、平成21年度日本大学大学院海外派遣奨学生として、かねてから希望していたアメリカ留学が実現しました。留学先は、カリフォルニア州北部のサンフランシスコ市郊外に位置するスタンフォード大学です。アメリカ留学するにあたり明確な目的や目標を抱いていたわけではなく、非常に漠然としたものでしたが、帰国後の満足感と充実感は想像以上のものとなりました。以下、私が体感した異国での研究生活、私生活について簡単にではありますが、ご紹介させていただきます。

研究生活について、私が所属した研究機関では、大学院生らが個々の研究テーマを持ち、それぞれで研究を進め、時折、指導教員にアドバイスを頂くといった形式であり、日本国内での研究活動と大きな相違はありませんでした。しかし、月に2、3度といったペースで学生が主催する研究発表会が頻繁に行われ、互いの研究内容の意見交換が活発になされるため、学生らの研究活動に対するモチベーションの高さが伺えました。また、大学院生のほとんどが留学生であるため、その場がそのまま国際交流の場となる、日本ではあまり経験できないことを体感させて頂くことができました。

私生活について、留学当初は、生活に慣れるまで辛い思いをしたというのが正直な感想です。その主な理由が住居探しです。私は、諸事情により留学先に到着してからの住居探しとなったため、非常に苦労しました。しかし、結果的にアメリカ人と韓国人との3人でルームシェアをし、生活することとなったため、当初から私が望んでいた外国人との有意義な国際交流を体験できました。3人それぞれが違う価値観と常識を持っているため、たびたび疑問を持つことがありました。しかし、それぞれが理解し合おう、自分の視野を広げようという考えを持って生活しているため、私も最後まで楽しく多くを学んだ共同生活を送ることができました。

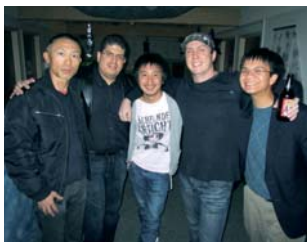
以上の様に、これまでの生活では体験できなかった楽しみや困難、日本とは違った文化や常識を体感し、今後における自身のクオリティーとして加えられることは、今までにない喜びを実感することができます。みなさんも、高いモチベーションを持って海外留学を志してはいかがでしょうか!!



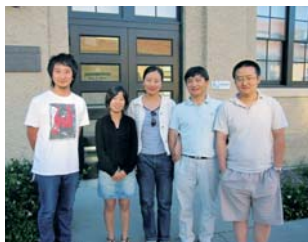
▲スタンフォード大メイン広場



▲研究室のデスク



▲研究所内でのパーティー



▲アジアからの留学生と

## 多民族国家オーストラリアにて

福島大学 経済経営学類1年  
村山 菜月

今年の夏休み、3週間をオーストラリアで過ごしました。福島大学が協定を結んでいるクィーンズランド大学(UQ)での語学研修に参加するためです。ここでは英語でアボリジニの文化を学んだり、日常会話の練習をしたりしました。その中で私が大学に行って一番よかったと思ったことは、そこで日本語を学ぶ学生や私と同じように英語を学びに来た学生たちと交流できたことです。

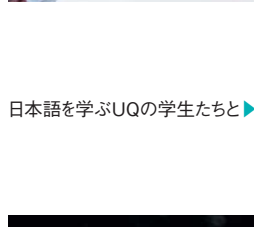
学生たちは本当に様々でした。自分の出身や両親の出身がバラバラで、まさにサラダボウル。共通言語の英語を使いながら、なんとかコミュニケーションをとりました。ゆっくり話してもらったり、知っている単語を繋ぎ合わせたりして必死に会話しました。それでも意思疎通できたし楽しく話すこともできました。私はこのとき、「英語があれば誰でも話せる」と感じました。そして同時に、「自分がどこの出身であるかなんて全く関係ない」ということも感じました。

日本はあまり外国人を受け入れていません。だから日本には同じような民族ばかりいます。見た目も大体同じです。外国人を見れば「あ、外国人だ」と思って見ていました。しかし、オーストラリアでは肌の色、髪の色、鼻の高さなどが違うと思わせる人々はたくさんいました。オーストラリアという、様々な人種がいる国の中で生活していると、自分や相手が何人であるかなんていちいち気にしなくなりました。そんなことを気にするのではなく、まず目の前にいる人と一人ひとりで接していくことが大切だということを再確認しました。

帰国してからは以前よりも「みんなちがって、みんないい」と思えるようになりました。もしかすると他にもオーストラリアに行って変わったことがあるかもしれません。いろいろな気づきを与えてくれた今回の研修に、心から感謝しています。



◀私と友人とホストファミリーと



日本語を学ぶUQの学生たちと▶



▲ゴールドコーストの浜辺で



▲UQの先生とカンガルー





## いわきに来て一年

いわき明星大学 科学技術学部有機化学研究科修士2年

王 進政 [中国]

自分の夢を叶うために約一年前に中国の瀋陽薬科大学から日本のいわき明星大学に留学にきました。振り返って見ると、この一年を日本で過ごしたことは自分の人生の財産になりました。自身で日本を感じて異文化を受けてほんとにいい経験です。

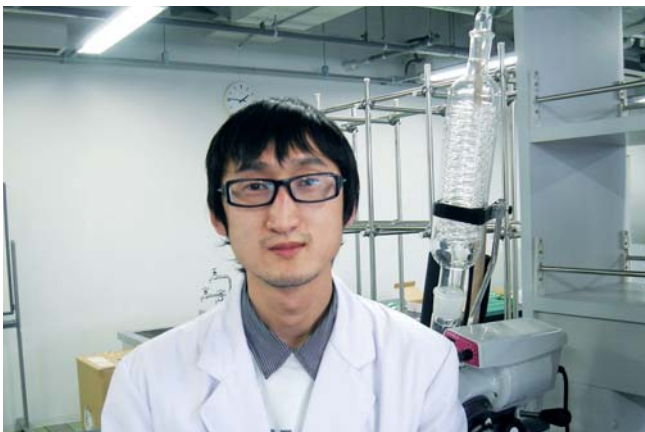
日本の色々な文化や習慣などに、中国から伝わったものもあり、日本と中国とは色々な面で似通った点があると思っていましたが、日本に来てから、やはり違う国だと強く感じました。

一番目にしたことは環境です。いわき市に来てから私に与えるイメージは緑でした。目の見えるところまで森と花ばかりです。このような発達した社会でこのようないい自然環境が保たれているのは不思議です。それから、日本人の生活と自然が繋がっているのを感じました。たとえば、和室は大体木と畳と紙のような自然の素材で作られていたり、料理は新鮮な材料が使われたりして、自然を大事に取り入れています。

次の感じたことは義理を重んずることです。日本に来る前、中国人と日本人との間に厚い無形の壁が存在するという話を聞きましたけれど、今までそれを実感したことはありません。どこへ行っても、「すみません」「ありがとうございます」といった優しい言葉を掛けてくれますので心が暖まります。先生と研究室のスタッフたちはとても親切で、日本に来てから勉強はもちろん生活の隅々まで気遣ってくださいます。再入国申請の時、道に迷いましたが、見知らぬ人に道を尋ねたら、連れていってくれました。とても感動しました。知らない人にもかかわらず、そこまで親切にしてくれたのだから、ほんとにいい人だと思いました。

最後に、日本人の真面目さと勤勉さに感動しました。私研究室に初めて入ったとき、分らないことがいっぱいありました。研究室の助手さんは熱心に分るまで繰り返して教えてくれました。その真面目な仕事ぶりは立派だと思いました。回りの日本人の学生はすごく頑張っています。自分の学業のために、兄弟のために、研究しながらバイトをします。疲れるけれど毎日を楽しんでいるそうです。中国の学生より日本の学生は独立精神が強いと思います。

いままで経験したことは自分の成長にとってもプラスになっています。私の人生において貴重な経験であり、良い思い出になると思います。これからはもっと日本語を勉強し、研究し、熱情を出して、楽しんで毎日を送ります。



## 日本に対する印象

いわき明星大学 科学技術学部結構生物学研究科修士2年

張 放 [中国]

最初に日本にきて驚いたのは、その静かさでした。たとえ電車やバスの中でも、ながれる風の音しか聞こえませんでした。乗客はみんな携帯の電源をきったり、マナーモードにしたり、まれに会話をして、他人を邪魔しないように、声をなるべく小さくしています。

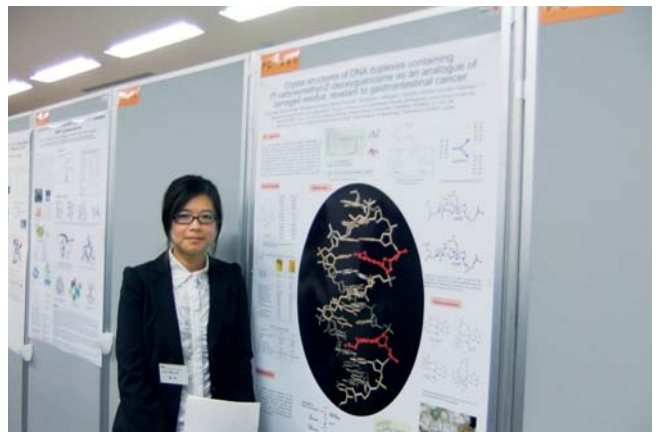
たぶん日本人は世界では一番交通ルールを守っているでしょう。深夜になっても、そして、道路を車が走ってなくても、信号が青に変わらないと、人は渡りません。

月日がたつにつれて、だんだん気づいたことがあります。それは、日本人の美学に対するこだわりです。町の人々は自分の服装を周囲の自然環境に溶かすように工夫し、町の風景と一体になっているように見えます。道路に埃もなく、清潔そのものですが、マンホールのふたまで特徴的に見えます。もし清潔さが日本全体の特徴とすれば、マンホールのふたの特別さはきっと町の人々の心の現れでしょう。

日本人は伝統文化を大事にしています。茶道や剣道や書道などいろいろあり、日本人はそれらを習得したことを誇りに思うべきだと思います。

伝統を重視するとともに、新しいものも一生懸命学ぼうとします。日本民族は他民族に学ぶことが上手で、しかも、形だけではなく、その中身を学ぼうとします。さらに、吸収して自分のものとし、自民族の文化に溶け込ませます。日本では、あちらこちらに見られる中国風や欧風の建築物がこれを物語っています。中国スタイルとヨーロッパスタイルを見事に組み合わせて、日本独自の建物になっているあたりは、まさに日本特有の景色だと思います。

私は日本に来て、いろいろなものを見て、考えましたが、自分は科学技術だけを勉強するのではなく、日本の文化、日本人の考え方や習慣など、それらも勉強して、理解し、中国の人々に伝えるべきではないかと思うようになりました。





## 日本そのもの

日本大学工学部 電気電子工学科 1年  
コステ ダレン [アメリカ]

私が始めて日本へ留学に来たのは2008年の6月でした。

日本に来て初めにしたことはアパート探しです。海外からアパートを探すのは難しいので、最初はユースホステルに1ヶ月ぐらい住みました。ある日、偶然に入ったアエラスという不動産で、五十嵐さんと出会いました。彼はアエラスの社員ですが、私にとってとても大切な存在となりました。

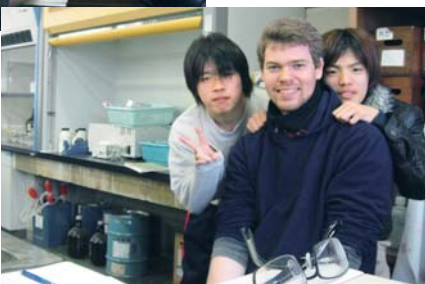
外国人にとって日本に住むことは易しいことではありません。外国人登録書、銀行の口座、印鑑、携帯電話などがが必要です。しかし、その頃私はあまり日本語が話せなくて、どうすればいいか全く分かりませんでした。五十嵐さんは自分の役目を超え、親切に外国人登録書に関する情報を教えてくれたり印鑑を作ったり銀行口座を開設する手伝いをしてくれました。

アパートを探すため、五十嵐さんは私をよく色々なところへ車で連れて行ってくれました。そして、ようやく住むところが見つかった時は本当に嬉しくて、その日のことは一生忘れません。五十嵐さんは仕事を超えて私を助けてくれたのです。そのとき、日本人ってすごいなと思いました。日本語があまり話せなかった私に見返りを求めず手を差し伸べてくれたのです。

その後、東京の街をあちこち歩きながら、色々なものを見ました。お金持ちの生き方、ホームレスの住み方。道を歩きながら歌っている人も、泣いている人も。日本という国は世界中にただ一つしかないけど、その国の中に生きている「人」はどの国でも同じです。同じ人間で、同じ弱さがあり同じ強さがあります。

私は赤門会日本語学校と教会に通いながら、このようなことを深く考えました。日本はいいところも、悪いところもたくさんあります。アメリカもそうです。しかし私はこの国の人々をもっと知りたいです。友達も作って、日本に来て本当によかったと思っています。赤門会を卒業し、2010年4月、日本大学工学部に入学することが出来ました。本当に感謝しています。私のように弱さもある人間が、日本に住み、勉強し、成長できていることは本当に喜ぶべきことです。あと3年ちょっと残っていますが、日大で頑張ります。

私には夢がありますから。



## ネパールの青い森は、金のように すばらしい ～象と一角サイの楽園～

東日本国際大学留学生別科  
ポーデル パラカス [ネパール]

私の家からバイクで10分ほどのところには、世界遺産にも登録されたチトワン国立公園があります。そこは、インドとの国境に接するネパールの南部に当たり、亜熱帯のジャングルが広がっています。この密林の中に、野生の象やサイがたくさんいるのです。この国立公園は、特にクリスマスが一年で一番賑やかです。なぜなら、クリスマスフェスティバルが開かれ、象レースや子象のサッカーなど楽しいイベントが開催されるからです。これを見るために、世界各地からたくさんの観光客がネパールにやって来るので、余計に賑やかになります。子象のサッカーはとても可愛いです。このフェスティバルは、動物たちとのふれあいを通じて、人々に動物の愛らしさを知ってもらい、地球から絶滅しそうな動物を救うことにその収益を使うことを目的としています。

また、この国立公園には、一角サイがいます。これはインドとチトワン国立公園にしか生息していない貴重な動物ですが、この公園には少なくとも430頭はいるので、比較的簡単に見ることができます。一角サイは、畑にも出没し、時には作物を食い荒らすため、人とのトラブルも絶えません。また、非常に獰猛な性格で、多くの人の命も奪いました。しかし、この公園内では、3人ずつ象に乗りながら、安全に観察する小旅行が楽しめます。

近年、この一角サイの乱獲が問題になっています。サイの角は薬となり、固い皮膚はバックなどの材料になり、また肉は食用になります。そこで、お金目当てのハンターたちが密猟を続けているのです。このように絶滅危惧種となった一角サイを国や国際政治機関が守ろうと保護活動を展開しています。

「ネパールの青い森は、金のようにすばらしい」という諺があります。私は母国ネパールの大自然の美しさや貴重な動物たちを誇りに思っています。私は、留学生活で、さびしい時もつらい時も、そしてうれしい時には、いつも故郷ネパールの風景を思い出します。遙か遠くに見えるヒマラヤの山並みと目の前に広がる段々畑、夕暮れ時に悠然と闊歩する象の姿、そして一角サイが赤ん坊を連れて森の中で草を食べる微笑ましい情景を思い浮かべながら、日々勉学に励んでいます。

そもそも私は、日本がなぜ今日のように、短期間のうちに経済発展を遂げられたのかという疑問に抱き、日本留学を決意しました。その謎を解明するために大学では経済学を専攻したいと思います。素晴らしい母国が日本のように経済発展を遂げ、双方がプラスになるような関係を築き、私を温かく迎え入れてくれた第二の故郷日本と、将来経済的にもよりよいパートナーとなることを心から願っています。







## どうして平気なの？

福島工業高等専門学校 物質工学科 4年  
ダーラー ポンピバック [ラオス]

留学して3年近くなり、日本の生活にも慣れてきましたが、ラオスとまったく違う習慣が多くて戸惑うことがあります。たとえば、日本語教育センターで勉強していたとき、初めてのテストがありました。私はかなり自信があったのに、返された答案用紙にはマルがたくさん付いていました。「どうしてこんなに悪い結果なのか……」とがっかりしましたが、点数を見るとそんなに悪くありません。先生に聞いてみると、日本では正しい答えにマルを付ける習慣があることが分かりました。でも、私の国では、マルは答えが間違っているときに付けるもので、マルはゼロという意味になります。

もうひとつの不思議な習慣は「音」に関係があります。日本人はつるつると音をたてながらどんやラーメンを食べますが、外国人から見ると、これはおいしそうには聞こえないし、あまり気持ちのいい音ではありません。また、日本ではごく普通のことでも、私にはどうしても気になる音があります。

ある日、教室で静かに授業を受けていたとき、突然、鼻をかむ大きな音がしましたが、日本人学生はみんな何事もなかったように平気で、そのまま授業が続きました。私の国では他の人がいるところで鼻をかむ音を出すのは、非常に行儀の悪いことで失礼だと言われています。風邪をひいていても、授業中に大きな音を出して鼻をかむことは絶対にしません。どうしても我慢できないときは、教室を出て他の人がいないところで鼻をかむようにしています。

それで、授業中にだれかが鼻をかんでいる音を聞いて、びっくりしました。日本人が健康のために体を大切にしていることはよく知っていますが、人の前で平気で鼻をかむ習慣は不思議だと思います。日本では授業や会議では、周囲に迷惑をかけないように携帯電話をマナーモードにするという厳しい規則があります。それにもかかわらず、鼻をかむ音は迷惑をかけることにはならないと考えているようです。日本では教室で鼻をかんでも大丈夫ですが、私はまだ一度もそうしたことはありません。

このように自分の国と違う習慣がいろいろありますが、今住んでいるところの習慣に従ったほうが、日本の文化や伝統を理解することができるし、生活にも早く慣れることができると思っています。

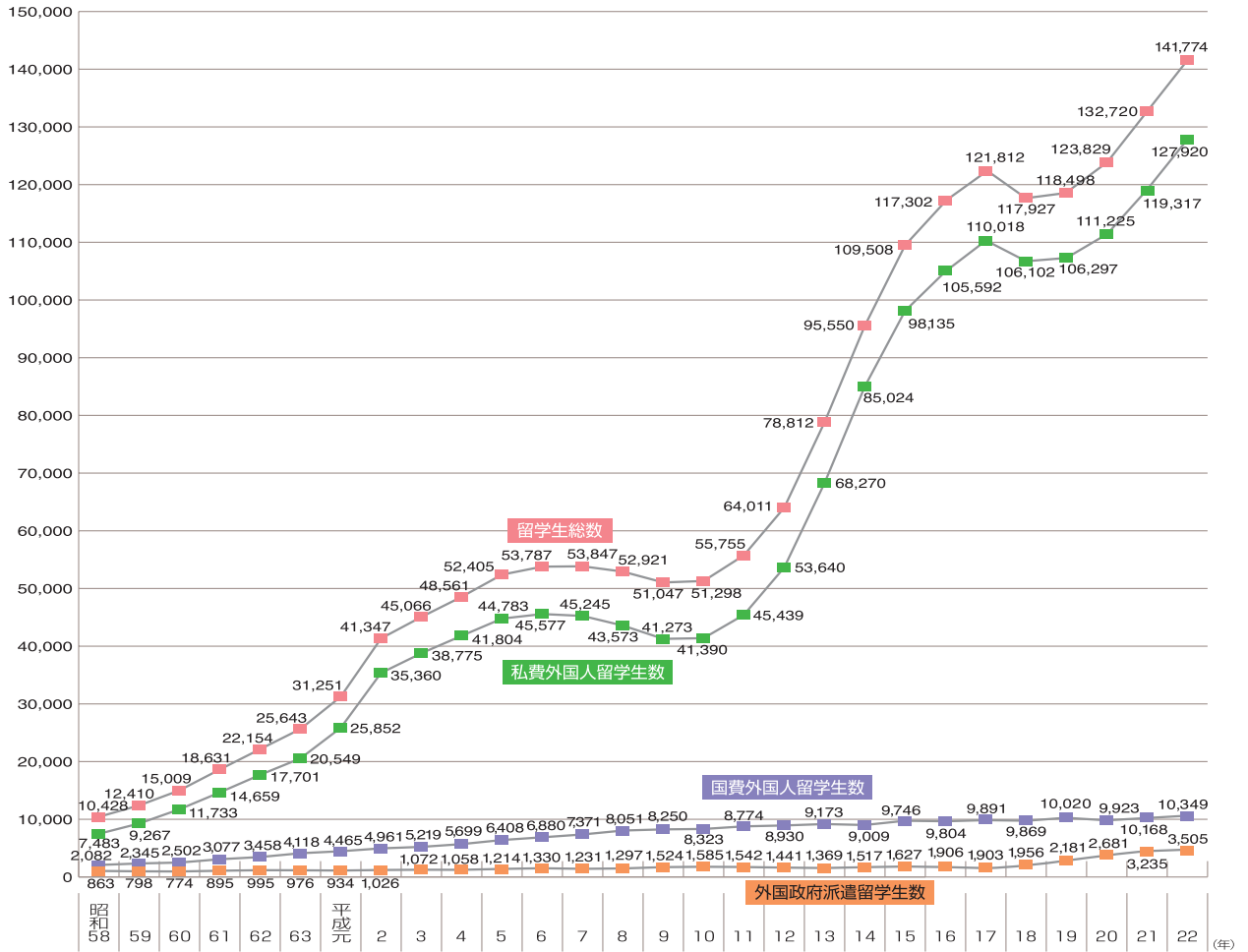


# 外国人留学生の受け入れ状況

我が国の大学等で学ぶ留学生は、平成22年5月1日現在141,774人で、平成21年度に比べ9,054人(6.8%)増加した。これを出身地域別に見ると、我が国の地理的、文化的状況もあり、アジア地域からの留学生が全体の約9割を占めている。

また、出身地域では、中国、韓国及び台湾からの学生が全体の78.8%を占めている。

## 留学生数の推移 大学・専門学校等の在籍者数(各年5月1日現在)



(文部科学省及び(独)日本学生支援機構調べ)

## 出身国・地域別 留学生数

※大学・専門学校等の在籍者に限る  
(平成22年5月1日現在)

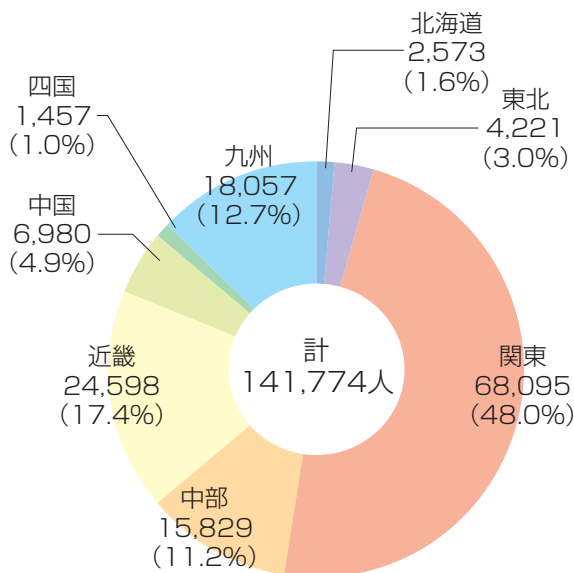
国・地域名	留学生数(人)	構成比
中国	86,173	60.8%
韓国	20,202	14.2%
台湾	5,297	3.7%
ベトナム	3,597	2.5%
マレーシア	2,465	1.7%
タイ	2,429	1.7%
アメリカ	2,348	1.7%
インドネシア	2,190	1.5%
ネパール	1,829	1.3%
バングラデシュ	1,540	1.1%
その他	13,704	9.8%
<b>合計</b>	<b>141,774</b>	<b>100.0%</b>

(文部科学省及び(独)日本学生支援機構調べ)

# 地方別・都道府県別留学生数

※大学・専門学校等の在籍者に限る(平成22年5月1日現在)

北海道	2,573
青森	600
岩手	421
宮城	2,140
秋田	351
山形	242
福島	467
茨城	2,714
栃木	1,085
群馬	1,756
埼玉	6,153
千葉	6,054
東京	45,617
神奈川	4,716
新潟	1,597
富山	606
石川	1,804
福井	339
山梨	888
長野	674
岐阜	1,439
静岡	1,709
愛知	6,773



三重	1,044
滋賀	477
京都	5,896
大阪	10,791
兵庫	4,637
奈良	1,486
和歌山	307
鳥取	202
島根	218
岡山	2,628
広島	2,538
山口	1,394
徳島	355
香川	411
愛媛	520
高知	171
福岡	9,665
佐賀	404
長崎	1,653
熊本	756
大分	4,198
宮崎	168
鹿児島	644
沖縄	569

注) 他府県にまたがる大学等の留学生については、本部の所在する都道府県に計上した。

(文部科学省及び(独)日本学生支援機構調べ)



## 福島県内高等教育機関における外国人留学生の受け入れ状況

### 国費・私費別外国人留学生数

(平成21年10月1日現在)

留学生の所属大学等	福島県立医科大学	会大	津学	会津大学短期学	奥大	羽学	日大工学部	本学	郡女大	山子学	郡山女子大学短期大学部	いわき明星大	東日本国際大	いわき短大	福学大	島院学	福島学院大学短期大学部	桜の聖母短期大学	福島工業高等専門学校	福大	島学	計	%
国費	1	25					2													4	4	36	7.7
政府派遣							4													9		13	2.8
県費							1								1							2	0.4
私費	3	43					7	2				4	199								157	415	89.1
計	4	68	0	0	0	14	2	0	4	199	0	1	0	0	13	161	466	100.0					

(平成22年10月1日現在)

留学生の所属大学等	福島県立医科大学	会大	津学	会津大学短期学	奥大	羽学	日大工学部	本学	郡女大	山子学	郡山女子大学短期大学部	いわき明星大	東日本国際大	いわき短大	福学大	島院学	福島学院大学短期大学部	桜の聖母短期大学	福島工業高等専門学校	福大	島学	計	%
国費	1	16					1													4	6	28	5.7
政府派遣							4													9	1	14	2.9
県費				1														1				2	0.4
私費	2	48					10	1				5	210								170	446	91.0
計	3	64	1	0	15	1	0	5	210	0	0	0	0	0	1	13	177	490	100.0				

※留学生受け入れがない大学は、計上していません。

# 国・地域別外国人留学生数 (平成22年10月1日現在)

所属大学等		医福 科島 大県 学立	会 津 大 学	短 期 大 学 大 学	工 日 本 大 学 大 部 学	大 郡 山 女 学 子	大 い わ き 明 学 星	大 東 日 本 国 学 際	短 桜 期 の 大 聖 学 母	専 門 学 校 福 島 工 業 高 等	福 島 大 学	計	地 域 別 割 合
地域・国別													
アジア	中 国	2	33		7	1	4	131			139	317	96.9%
	台 湾		6					1			1	8	
	韓 国		3					1	19		12	35	
	中国(香港)												
	ネパール							11			1	12	
	モンゴル				1			4		1	6	12	
	マレーシア				1					9	3	13	
	インドネシア									2	1	3	
	ミャンマー							42				42	
	ベトナム		2					1			10	13	
	ラオス									1		1	
	タイ		1			4						5	
	フィリピン										1	1	
	スリランカ		8									8	
インド		4									4		
バングラデシュ		1									1		
計		2	58	0	13	1	5	209	0	13	174	475	
北米・中南米	ブラジル			1				1	1			3	1.2%
	ペルー				1							1	
	エルサルバドル		1									1	
	コロンビア												
	アメリカ				1							1	
計		0	1	1	2	0	0	1	1	0	0	6	
オセアニア	オーストラリア										1	1	0.2%
	計		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
ヨーロッパ	ドイツ										2	2	1.2%
	ブルガリア		1									1	
	ハンガリー		1									1	
	ロシア		2									2	
計		0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	6	
アフリカ	ナイジェリア												0.4%
	ウガンダ												
	チュニジア		1									1	
	コンゴ民主共和国	1										1	
	タンザニア												
計		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
合 計		3	64	1	15	1	5	210	1	13	177	490	100%



# 私費留学生の奨学金別受給状況

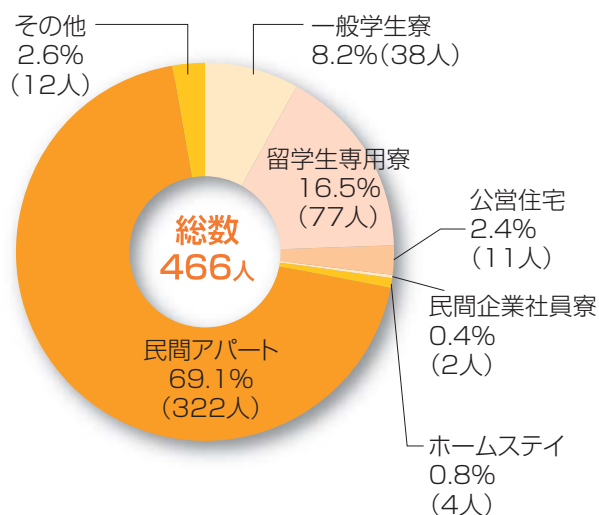
(平成22年10月1日現在)

奨学金名称	国・地域	人数	機関名
私費外国人 学習奨励費	大学院	5	会津大学
	大学院	6	福島大学
	学部	1	日本大学工学部
	学部	12	東日本国際大学
	別科	3	東日本国際大学
	学類	14	福島大学
	計	41	
(財)ロータリー 米山記念奨学金	大学院	1	日本大学工学部
	大学院	2	会津大学
	大学院	7	福島大学
	学部	3	東日本国際大学
	学類	2	福島大学
	計	15	
ふくしま友好外交官	大学院	2	福島大学
	学部	1	東日本国際大学
	学類	7	福島大学
	計	10	
サトー国際奨学金	大学院	1	福島大学
	学類	1	福島大学
	計	2	

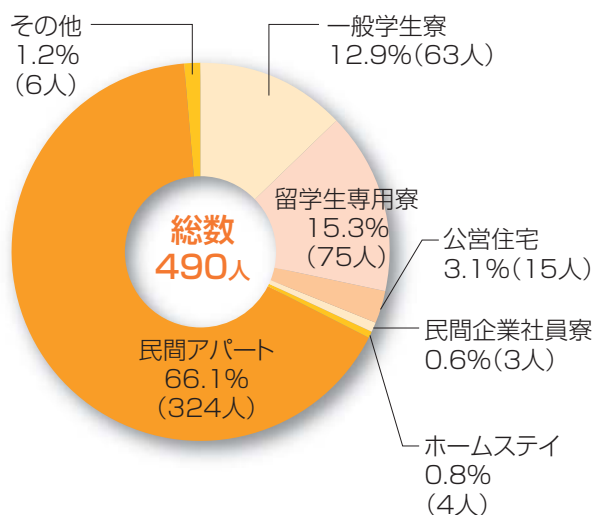
奨学金名称	国・地域	人数	機関名
(財)平和中島 財団外国人 留学生奨学金	大学院	1	福島県立医科大学
	大学院	1	会津大学
	学部	1	東日本国際大学
	計	3	
(財)実吉奨学金	学部	1	日本大学工学部
安田奨学金	学類	3	福島大学
彌満和奨学金	学類	6	福島大学
マブチ国際育英財団	学類	2	福島大学
日本大学工学部第三種奨学金		2	日本大学工学部
会津大学留学生後援会		6	会津大学
デュアルディグリー プログラム奨学金		6	会津大学
短期留学生推進制度による奨学金		1	福島大学
日韓大学生交流事業		1	福島大学
ふくかねっと奨学金		1	福島大学
日本国際教育支援協会奨学金		1	福島大学
福島大学留学生後援会		2	福島大学
総計		103	

# 留学生の寄宿状況

平成21年10月1日現在



平成22年10月1日現在



平成22年度 福島県内高等教育機関における研究・教育交流協定締結校名 (平成22年10月1日現在)

大学名	交流協定締結校	国名	所在地	学術交流協定締結	学生交流協定締結	留学生受け入れ数	学生派遣数	地域
会津大学	インド工科大学デリー	インド	ニューデリー	○	○			1
	コンジュ国立大学	韓国	忠清南道公州市	○	○			1
	ソウル市立大学	韓国	ソウル市	○	○			1
	ハリム大学	韓国	江原道春川市	○	○			1
	浦項工科大学	韓国	慶尚北道浦項市	○	○			1
	延世大学	韓国	ソウル市	○	○			1
	釜山国立大学	韓国	釜山広域市	○	○			1
	高麗大学	韓国	ソウル特別市	○	○			1
	忠北大学	韓国	忠清北道清州市	○	○			1
	国立暨南国際大学	台湾	南投県埔里鎮	○	○			1
	淡江大学	台湾	台北県	○	○			1
	朝陽科技大学	台湾	台中県霧峰郷	○	○	19		1
	ハルビン工業大学	中国	黒龍江省ハルビン市	○	○	1		1
	華中科技大学	中国	河北省武漢市	○	○	3	3	1
	上海交通大学	中国	上海市	○	○			1
	上海大学	中国	上海市	○	○			1
	中国科学院近代物理研究所	中国	甘肅省蘭州市	○	○			1
	南京大學	中国	南京市	○	○			1
	復旦大学	中国	上海市	○	○			1
	北京大學軟件微電子学院	中国	北京市	○	○			1
	北京大學核物理研究中心	中国	北京市	○	○			1
	F P T 大学	ベトナム	ハノイ市	○	○			1
	ハノイ工科大学(HUT)	ベトナム	ハノイ市	○	○			1
ベトナム国家大学ハノイ国際外国語大学	ベトナム	ハノイ市	○	○			1	
郵政電信工芸学院	ベトナム	ハノイ市	○	○			1	
ウエストバージニア大学	米国	ウエストバージニア州モーガンタウン	○	○			2	
サウスカロライナ大学	米国	サウスカロライナ州コロンビア	○	○			2	
テイラー大学	米国	インディアナ州アップランド	○	○			2	
マーサー大学	米国	メリーコ州	○	○			2	
ローズハルマン工科大学	米国	インディアナ州テレホート	○	○	4	1	2	
ポルト大学	ポルトガル	ポルトガル	○	○			5	
ローマ大学サピエンツァ	イタリア	ローマ	○	○			5	
ウメオ大学	スウェーデン	ウメオ	○	○			5	
デュッセルドルフ専門大学(FH-D)	ドイツ	デュッセルドルフ	○	○			5	
ミュンヘン工科大学	ドイツ	ミュンヘン	○	○			5	
ロレーヌ工科大学/ナンシー校	フランス	ムルト＝エ＝モゼルナンシー	○	○			5	
グダニスク工科大学	ポーランド	グダニスク	○	○			5	
ポーランド日本情報工科大学	ポーランド	ワルシャワ	○	○			5	
ティミソアラ工科大学	ルーマニア	ティミソアラ	○	○			5	
サンクトペテルブルク工科大学	ロシア	サンクトペテルブルク	○	○			5	
サンクトペテルブルク情報技術・機械・光学大学	ロシア	サンクトペテルブルク	○	○			5	
サンクトペテルブルク電気工科大学	ロシア	サンクトペテルブルク	○	○			5	
サンクトペテルブルク大学	ロシア	サンクトペテルブルク	○	○			1	5

大学名	交流協定締結校	国名	所在地	学術交流協定締結	学生交流協定締結	留学生受け入れ数	学生派遣数	地域
会津大学	ノボシビルスク国立工科大学	ロシア	ノボシビルスク	○	○			5
	ノボシビルスク国立大学	ロシア	ノボシビルスク	○	○			5
	モスクワ工科大学	ロシア	モスクワ	○	○			5
	モスクワ物理工科大学	ロシア	モスクワ	○	○			5
奥羽大学	慶熙大学	韓国	ソウル市	○				1
	ロマリンダ大学	アメリカ	カリフォルニア	○				2
日本大学工学部	テキサス大学オースチン理工学部	アメリカ	テキサス	○	○			2
	ルーヴァン・カトリック大学工学部	ベルギー	ルーヴァン・ラ・ヌーヴ	○	○			5
	ウメヨ大学理工学部	スウェーデン	ウメヨ	○	○			5
東日本国際大学	和春技術学院	台湾	高雄県	○	○			1
	金浦大学	韓国	京畿道	○	○			1
	世宗大学	韓国	江原道	○	○			1
	成均館大学	韓国	ソウル	○	○			1
	開南大学	台湾	桃園県	○	○			1
	安慶大学	中国	安徽省合肥市	○	○	5		1
	曲阜師範学校	中国	山東省曲阜市	○	○			1
	曲阜師範大学	中国	山東省曲阜市	○	○			1
	孔教大学院	中国	香港九龍	○	○			1
	政法大学	中国	北京	○	○			1
	大連民族学院	中国	遼寧省大連市	○	○		1	1
	撫順師範高等専科学校	中国	遼寧省撫順市	○	○			1
	瀋陽体育学院	中国	遼寧省瀋陽市	○	○			1
	カリフォルニア州立大学ポリテクニク	アメリカ	カリフォルニア州サンルイスオビスポ	○	○			2
	福島大学	北京師範大学	中国	北京	○			
韓国外国語大学		韓国	ソウル市	○	○	2	2	1
白石大学・白石文化大学		韓国	天安市	○	○	2		1
国立台北大学		台湾	台北市	○				1
河北大学		中国	保定市	○	○	2	2	1
華東師範大学		中国	上海市	○	○	2		1
中南財経政法大学		中国	教育省	○				1
ベトナム国家大学ハノイ自然科学大		ベトナム	ハノイ市	○				1
ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大		ベトナム	ハノイ市	○				1
ウイスコンシン大学オークレア校		アメリカ合衆国	オークレア市	○				2
ミドルテネシー州立大学		アメリカ合衆国	マーフリースポロー	○				2
ビクトリア大学		カナダ	ビクトリア市	○	○			2
クィーンズランド大学		オーストラリア	ブリスベン	○	○	1		4
スターリング大学		スコットランド連合王国	スターリング	○				5
ルール大学ボーフム		ドイツ	ボーフム		○	1	1	5
福島工業高等専門学校	Thammasat University	タイ	バンコク	○	○	4	1	1
	Middlesex University	英国	ロンドン	○	○			5
いわき明星大学	遼寧石油化学大学	中国	遼寧省撫順市	○	○			1
	瀋陽薬科大学	中国	遼寧省瀋陽市	○	○	4		1
福島県立医科大学	武漢大学	中国	湖北省武漢市	○	○		4	1



## アカデミア・コンソーシアムふくしま

事務局:福島大学大学連携センター

住 所:〒960-1296 福島市金谷川1番地

電 話:024-548-5295 FAX:024-548-5296

発 行:平成23年3月